

特定外来生物等の選定作業が必要と考えられる
外来生物及び輸入届出が出された未判定外来生物に
係る情報及び評価（案）

1. オオガシラ属 (*Boiga* spp.) の全種

輸入届出が出されたのは台湾オオガシラ *B. kraepelini* であり、後述の理由から属全体で判定を行うこととした。なお、ミナミオオガシラ *Boiga irregularis*、ボウシオオガシラ *B. nigriceps*、ミドリオオガシラ *B. cyanea*、マングローブヘビ *B. dendrophila*、イヌバオオガシラ *B. cynodon* はすでに特定外来生物に指定されている。

1. オオガシラ属 (*Boiga* spp.) の全種

(1) 分類 有鱗目ナミヘビ科オオガシラ属

37 種が含まれる。本属の分類は Uetz et al. (2026); Weinell et al. (2021) の分類体系に基づく。

(2) 生態系被害防止外来種リスト 掲載なし

(3) 評価 特定外来生物

- 特定外来生物被害防止基本方針 第2 2(1)被害の判定の考え方に基づき、生態系等に係る被害を及ぼすおそれがあると評価した。
(ミナミオオガシラ、ボウシオオガシラ、ミドリオオガシラ、マングローブヘビ、イヌバオオガシラは既に特定外来生物)。

(4) 評価の理由

オーストラリア中東部から東南アジア原産の比較的大型になるほぼ完全な樹上性の高次捕食者であり、国内では樹上性のヘビ類は少ないことから、逸出した場合には、亜熱帯気候の南西諸島に加え、種類によっては関東以南に定着のおそれがある。定着した場合、鳥類、爬虫類、両生類などの在来生物の捕食や餌資源等の競合によって、我が国の生態系に重大な被害を及ぼすおそれがある。また、国外の事例において、捕食によって数多くの在来生物を絶滅に追いやった種が含まれるほか、オオガシラ属は後牙に弱毒を持っており、人が咬まれた場合に幼児などで重症化するおそれがある。オオガシラ属のヘビ類は生態的に類似し、被害事例の少ない種についても同様の被害を及ぼすおそれがあることから、予防的観点から属による指定が必要であると考えられる。

(5) 定着実績

- ミナミオオガシラがグアム島に定着している (Rodda et al., 1992)。その他のオオガシラ属の自然分布域外への定着事例は確認できなかった (GISD database)。

(6) 被害の事例

1) 生態系に係る被害

- ミナミオオガシラやマングローブヘビ、タイワンオオガシラ (*B. kraepelini*)

をはじめ、いずれの種も主に樹上で活動し、小型哺乳類（ジャワマメジカ、げっ歯類、コウモリ類など）、鳥類（雛や卵を含む）、トカゲ類、ヘビ類、カエル類などを捕食する食性幅が広い高次捕食者であり（Greene, 1989; Sun and Yang, 2024）、日本国内に定着した場合、捕食により在来の生物群集に影響が及ぶ。

- グアム島に定着したミナミオオガシラによって、数多くの鳥類、トカゲ類、コウモリ類が絶滅に追いやられた（自然環境研究センター, 2019）。
- 野外操作実験でのミナミオオガシラの除去によって3種のトカゲ類（スキנקとヤモリ）の個体数が増加したことから、捕食によってこれらのトカゲ類を減少させたことが確かめられた（Campbell et al., 2012）。
- ミナミオオガシラは自身の口幅よりも大きいサイズの獲物を襲うことが多いが、捕食に失敗するケースも多い。しかしそのようなケースでは、襲われた個体が死亡することにより、獲物の個体群に多大な影響を及ぼす可能性がある（Kastner et al., 2024）

2) 人の生命・身体に係る被害

- オオガシラ属は全ての種で後牙に弱毒をもつ（Dashevsky et al., 2018）
- 毒は鳥類や爬虫類に特化したものであるが、哺乳類などにも効果がある（Dashevsky et al., 2018）
- ミナミオオガシラによる人への咬傷例は多くないが、特に幼児などでは重症化する例がある（自然環境研究センター, 2019）

3) 農林水産業に係る被害

- 特になし。

4) その他の社会的被害

- ミナミオオガシラは、外来種として定着したグアムで電柱に上り、漏電などが発生している（自然環境研究センター, 2019）。日本国内ではアオダイショウで同様の事例が生じるが、ほぼ完全な樹上性であるオオガシラ属ではより頻度が高いと推測される。

（7） 原産地

南アジア、東南アジア、インドシナ、中国南部、台湾、ニューギニア、オーストラリア中東部等に分布する（IUCN et al., 2013; Uetz et al., 2026）。各種の分布域はUetz et al. (2026)に準拠した。

- *B. andamanensis* インド (アンダマン諸島)
- *B. angulata* フィリピン
- *B. barnesii* スリランカ
- *B. beddomei* インド
- *B. bengkulensis* インドネシア
- *B. bourreti* ベトナム
- *B. ceylonensis* スリランカ
- *B. cyanea* (ミドリオオガシラ) インド、バングラデシュ、ブータン、ネパール、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレー半島、中国
- *B. cynodon* (イヌバオオガシラ) インドネシア、マレーシア、マレーシア (ティオマン島)、フィリピン、シンガポール、ミャンマー、タイ、カンボジア、ラオス
- *B. dendrophila* (マングローブヘビ) インドネシア、カンボジア、ミャンマー、マレー半島、タイ、ベトナム、フィリピン
- *B. dightoni* インド (ケララ州)
- *B. drapiezii* インドネシア、ブルネイ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム、ミャンマー、タイ
- *B. flaviviridis* インド
- *B. forsteni* ネパール、スリランカ、インド
- *B. gocool* バングラデシュ、インド、ブータン
- *B. guangxiensis* 中国、ベトナム、ラオス
- *B. hoeseli* インドネシア
- *B. irregularis* (ミナミオオガシラ) パプアニューギニア、オーストラリア、グアム島 (移入)
- *B. jaspidea* インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ
- *B. kraepelini* (タイワンオオガシラ) 中国、台湾、ベトナム、ラオス
- *B. melanota* タイ、マレーシア西部? (West Malaysia)、シンガポール、インドネシア (スマトラ島)
- *B. multifasciata* インド、ネパール、ブータン
- *B. multomaculata* マレーシア、カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、インド、中国、インドネシア、バングラデシュ、香港、ラオス
- *B. nigriceps* (ボウシオオガシラ) タイ、中国、インドネシア、マレーシア、マレーシア (ティオマン島)
- *B. nuchalis* インド、ネパール
- *B. philippina* フィリピン

- *B. quincunciata* ミャンマー、インド、ブータン
- *B. ranawanei* スリランカ
- *B. saengsomi* タイ
- *B. schultzei* フィリピン（パラワン島）
- *B. siamensis* マレーシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマー、バングラデシュ、ネパール、インド、中国
- *B. stoliczkae* ネパール、インド、ミャンマー、中国（チベット）
- *B. tanahjampeana* インドネシア
- *B. thackerayi* インド（マハーラーシュトラ州）
- *B. trigonata* スリランカ、インド、パキスタン、ネパール、バングラデシュ、アフガニスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、イラン
- *B. wallachi* インド（ニコバル諸島）
- *B. westermanni* インド、ネパール

（８） 我が国への侵入経路

- 既に特定外来生物に指定されている５種に加え、オオガシラ属のいくつかの種（*B. trigonata*、*B. drapiezii*、*B. tanahjampeana*）ではペット販売された事例があった（2010年代爬虫類専門ショップホームページより）。
- 1980年代頃にイヌバオオガシラがよく流通していたとされる。
- マングローブヘビは大型かつ派手な模様があるために展示動物として利用されていた。
- ボウシオオガシラ、マングローブヘビ、イヌバオオガシラは国内で少数がペットとして飼われているとみられる。ただし、いずれも2007年の特定外来生物指定の際、すでに流通はしておらず、以降ペット利用のための流通はないため、研究機関以外では生体が存在しないと考えられる（第6回爬虫類両生類専門家グループ会合資料）。
- 日本動物園水族館協会の加盟園館における展示動物のデータベースには、オオガシラ属が含まれていない（日本動物園水族館協会・飼育動物検索）。

（９） 形態的特徴並びに近縁種、類似種などについて

- タイワンオオガシラは全長約1.6m、その他の種では1～2m程度のものが多い。マングローブヘビなど一部の種では2mを超え、3m近くになる種もある。
- 頭部は大型で幅広く、体形は細く側偏しており、樹上での生活に適した形態をしている。
- 瞳孔が縦長でネコの目のように見えることから、英名は cat snake とされ

る。

- 現在、オオガシラ属は 37 種から構成される (Uetz et al., 2026)。本属は単系統であり、属内変異は少ないと考えられる。属内では 3 つのクレードを形成する (Weinell et al., 2021)
- アフリカオオガシラ属 *Toxicodryas* (4 種) とタマゴヘビ属 *Dasypeltis* とともに姉妹群を形成する。(Weinell et al., 2021)

(10) 生態学的特徴

- オオガシラ属の各種は、南アジア、東南アジア、インドシナ、中国南部からオーストラリア中東部を原産とするヘビ類であり、我が国の野外に逸出した場合、亜熱帯気候の南西諸島や、種によっては関東以南などにも定着するおそれがある。
- オオガシラ属は熱帯雨林やマングローブの茂み、さらには砂漠や乾燥した山麓地帯にも生息する。熱帯の山岳林では、海拔 3,000m までの標高に生息する。(Ananjeva et al., 2015)
- タイワンオオガシラは中国の北西部甘肅省から台湾、ベトナム、ラオスまでの広範囲に沿岸部から 2,000m 程度の高標高地に分布する。1 月の平均気温 (15-20°C) が分布を規定する要因となり得ることが指摘されている (Ananjeva et al., 2015)。
- ミナミオオガシラの分布域を予測した研究によると、本種は熱帯から亜熱帯のほぼ全域に加え、フロリダやメキシコ湾沿岸域等を含めた広範囲に生息適地が広がると予測されている。また、年間降水量、最暖期の最高気温、年平均気温、最も乾燥した月の降水量などが分布を規定する重要な環境要因であると報告されている (Rödger and Lötters, 2010)。
- 鳥類や爬虫類を主としつつ、カエルなどの両生類、ネズミやコウモリなどの哺乳類も捕食する高次捕食者である (Cox et al., 1998; Sun and Yang, 2024)。
- *B. westermanni* は鳥類の卵を主に捕食すると考えられている。(Visvanathan, 2015)
- *B. trigonata* では、共食いの事例がある (Trivedi and Thakur, 2018)。
- 卵生である。ミナミオオガシラの一腹卵数は原産地では 4-12 個、侵入先のグアム島では 2-9 個であり (Savidge et al., 2007; 自然環境研究センター, 2019)、タイワンオオガシラでは 5-14 個とされる (Breuer and Murphy, 2009-2010)。
- 夜行性。地上を利用することもあるが、オオガシラ属のほとんどの種が完全な樹上性を示す (Harrington et al., 2018)。
- 細長い体を利用して樹上の細い枝先でも活動する (Cox et al. 1998)。

- 原産地での捕食者として、タイワンオオガシラがタイワンアマガサ (*Bungarus multicinctus multicinctus*) に、イヌバオオガシラがコブラの一種 (*Naja sumatrana*) にそれぞれ捕食された事例がある (Leong and Shunari, 2010; Dieckmann et al., 2010)。
- 日本国内に侵入した際の、オオガシラ属の潜在的な捕食者として猛禽類、イノシシ、アカマタなどが想定される。
- ミナミオオガシラは原産地では最大 2m 程度であるが、定着地であるグアム島では食物資源が豊富で天敵が不在であることから、3m 程度に達する個体も確認されている。これより、オオガシラ属は侵入地において大型化する可能性がある。(Fritts, T.H. and D. Leasman-Tanner, 2001)

(1 1) 防除に関する情報

- グアム島に定着したミナミオオガシラは薬剤を注入したマウスの散布による防除が行われ、一定の効果をあげている (自然環境研究センター, 2019)

(1 2) その他の情報

- オオガシラ属は 36 種が IUCN の Red List に掲載されており、タイワンオオガシラを含むほとんどの種は LC (低危険度) もしくは DD (情報不足) であるが、*B. andamanensis*, *B. saengsomi*, *B. tanahjampeana*, *B. bourreti* の 4 種は EN、*B. barnesii* は VU に選定されている (Zhou, Z. & Lau, M. 2012.)。

(1 3) 参考文献

- Ananjeva, N. B., Golynsky, E. E., Lin, S. M., Orlov, N. L., & Tseng, H. Y. (2015). Modeling habitat suitability to predict the potential distribution of the Kelung cat snake *Boiga kraepelini* Steineger, 1902. Russian Journal of Herpetology 22(3) 197-205.
- Campbell, E. W., A. A. Yackel-Adams, S. J. Converse, T.H. Fritts, & G. H. Rodda. (2012). Do predators control prey species abundance? An experimental test with brown treesnakes on Guam. Ecology 93:1194-1203.
- Dashevsky, D., Debono, J., Rokyta, D., Nouwens, A., Josh, P., & Fry, B. G. (2018). Three-finger toxin diversification in the venoms of cat-eye snakes (Colubridae: *Boiga*). Journal of Molecular Evolution, 86(8), 531-545.
- Fritts, T. H. & D. Leasman-Tanner (2001). "The Brown Treesnake on Guam: How the arrival of one invasive species damaged the ecology, commerce,

- electrical systems, and human health on Guam: A comprehensive information source". U.S. Department of the Interior.
- GISD (Global Invasive Species Database) Website.
<https://www.iucngisd.org/gisd/speciesname/Boiga+irregularis> [2026 年 6 月 5 日 閲覧]
- Harry W. Greene. 1989. Ecological, evolutionary, and conservation implications of feeding biology in old world cat snakes, genus *Boiga* (Colubridae). Proceedings of the California Academy of Sciences 46 : 193-207.
- Kastner, M., Goetz, S. M., Baker, K. M., Siers, S. R., Paxton, E. H., Nafus, M. G., & Rogers, H. S. (2024). Gape - limited invasive predator frequently kills avian prey that are too large to swallow. Ecology and Evolution, 14(7), e11598.
- 国立環境研究所ウェブサイト 侵入生物データベース
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30210.html>
<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/index.html> [2026 年 6 月 5 日 閲覧]
- 日本動物園水族館協会・飼育動物検索 .
<https://www.jaza.jp/animal/search#results> [2026 年 6 月 5 日 閲覧]
- Rodda, G. H., Fritts, T. H., & Conry, P. J. 1992. Origin and population growth of the brown tree snake, *Boiga irregularis*, on Guam.
- Rödder, D., & Lötters, S. (2010). Potential Distribution of the Alien Invasive Brown Tree Snake, *Boiga irregularis* (Reptilia: Colubridae) . Pacific Science, 64(1), 11-22.
- Savidge, J. A., Qualls, F. J., & Rodda, G. H. (2007). Reproductive Biology of the Brown Tree Snake, *Boiga irregularis* (Reptilia: Colubridae), during Colonization of Guam and Comparison with That in Their Native Range1. Pacific Science, 61(2), 191-199.
- 自然環境研究センター (編著), (2019). 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. 592pp.
- Sun, Y. F., & Yang, C. K. (2024). *BOIGA KRAEPELINI*. Herpetological Review 55(1): 104
- Trivedi, K., & Thakur, M. (2018). A case of cannibalism in the common Catsnake *Boiga trigonata* (Schneider 1802) (Squamata: Colubridae) from Surat, India. Reptiles & Amphibians, 25(1), 68-69.
- Uetz, P., Freed, P., Aguilar, R., Reyes, F., Kudera, J. & Hošek, J. (eds.)

2026.

The Reptile Database, <http://www.reptile-database.org>, accessed [2026年 6 月 4 日 閲覧]

Visvanathan A (2015). Natural history notes on *Elachistodon westermanni* Reinhardt, 1863. Hamadryad. 37 (1-2): 132-136.

Weinell, J.L., Barley, A.J., Siler, C.D., Orlov, N.L., Ananjeva, N.B., Oaks, J.R., Burbrink, F.T. & Brown, R.M. 2021. Phylogenetic relationships and biogeographic range evolution in cat-eyed snakes, *Boiga* (Serpentes: Colubridae). Zoological Journal of the Linnean Society 192: 169-184.